第5回 高知港海岸景観・利便性等検討会

議 事 概 要

I. 開催概要

日 時 : 平成31年3月8日(金) 10:00~12:00

場 所 : 高知城ホール 大会議室

出席者 : 以下のとおり

【委 員】

磯部 雅彦 (高知工科大学 学長)

重山 陽一郎 (高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻 教授)

原 忠 (高知大学 教育研究部 自然科学系 理工学部門 教授)

大倉 美知子 (カラーオフィス PERSONAL 代表)

【関 係 者】

吉永 昌弘 (高知県 土木部 港湾・海岸課 課長補佐)(代理出席)

井上 大 (高知市 防災対策部 地域防災推進課 課長補佐)(代理出席)

権藤 宗高 (国土交通省 四国地方整備局 港湾空港部長)

三野 真治 (国土交通省 四国地方整備局 高松港湾空港技術調査事務所長)

II. 議事概要

○「種崎千松公園 施設配置の条件について」に関する意見

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。(主に資料-4に関連)

1. 壁式区間の中間地点(最も天端が低くなる箇所)や、切り通し部の園路に雨水がたまり易くなるため、排水に留意して検討を進めていただきたい。
2. 壁式堤防の壁高欄については、上に人が登るなど危険な使われ方をされないよう工夫が必要である。防潮堤天端に岩石を貼り付けて凸凹としている熱海港での整備事例が参考となる。
3. 壁式堤防の前面と背面には松を植える予定である。植樹直後と10年、30年後では松の高さが異なり、壁式堤防の圧迫感も変わる。今後の検討では、どの時点を想定して概要図等を見せるかを考えておいた方が良い。
4. 壁式堤防のコンクリート表面は、人工的でないものが望ましい。限られた予算の中で、経年変化に対応できる素材であると良い。
5. 壁式堤防と中央展望台とでは、コンクリート表面の仕上げを変えた方が良い。表面に骨材を貼り付ける仕上げか、はつる仕上げ(塩害を考慮したコンクリート厚は確保)だと骨材が表面に出てきて見た目が変化し景観上良い。
6. 壁式堤防上の園路については特に、将来的に松葉がたまる可能性がある。高欄側は地覆をなくすなど、松葉等が溜まりにくい構造を検討していく必要がある。
7. 中央展望台については、風などによる自浄作用を期待できる形にすると良い。
8. 築山は最大クラスの津波に対する避難場所ではないことを徹底して周知する工夫が必要である(切り通しを設けると築山の高さが強調される)。また、切り通し部の園路の高さは、発生頻度の高い津波の津波高より高く防災上問題のないことを記載してほしい。
9. 学習広場では、盛土区間の固化改良体だけでなく、壁式区間の下部には鋼管杭を設置して強靱な構造となっていることをアピールできる看板(プレートなど)を設けた方が良い。
10. 津波避難時を考慮して、捨石護岸の間詰めや傾斜を駆け上がれるものにする、或いは階段の幅を広くすると良い。
11. スロープは車いすだけでなくベビーカーも利用する。展望テラスから砂浜までの動線として、避難経路だけでなく利用面からもスロープは重要。
12. 千松公園背後から津波避難ビルまでの動線は、地盤の液状化により凸凹が生じる可能性があり、想定より避難時の歩行速度が遅くなる可能性がある。今後、液状化するエリアを確認して津波避難ビルまでの避難の検証を行っていただきたい。

13. 結節点の構造はできるだけシンプルかつ十分な止水性能を確保できるように、高知港海岸地震津波対策技術検討会から助言を受けつつ検討していただきたい。

○ 「種崎千松公園 整備計画(案)について」に関する意見

検討会における主な助言、意見は以下のとおり。(主に資料-5に関連)

1. 高知は津波が非常に厳しい条件となり防災上の課題が多いところである。それにもかかわらず、防災面・景観面・利用面すべてに配慮した海岸堤防は世界でも類を見ないものとなっている。世界中に宣伝できる良いものにしたい。実現に向けて検討を進めて欲しい。
2. 中央展望台部分は、被覆ブロック・コンクリート舗装が展望台の基礎と干渉するため、壁式堤防区間とは違う断面となる。また、転落防止の柵は目立たないよう明るい色が望ましい。
3. 避難誘導はパネルだけでなく、地面に埋め込む形で避難誘導できるものがあると良い。
4. 次年度以降、高知市と協力し、避難経路の明示等、避難方策の検討も行って欲しい。

以上